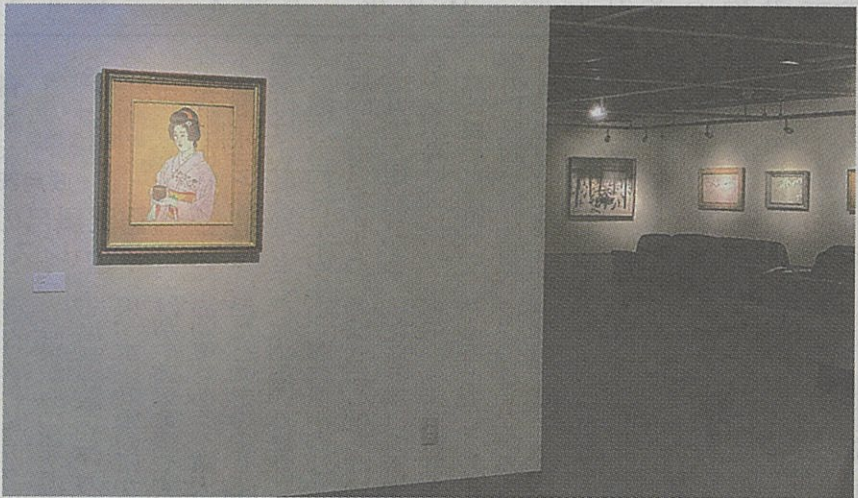


文化・芸術



「展示室2 第一部近代の『日本画』—四季の彩り」展示風景

《名画の扉》 企画展「The日本・画—大川美術館のコレクションを中心に」から

日本の近代化の中で生まれた「日本画」といふ言葉は、明治期に流入してきた「洋画」に対して、それまで「やまと絵」や「狩野派」などと呼ばれていた絵画を総じて呼びならわそうとする言葉でした。以降、それまでの日本の絵画を伝統として意識しながら継承しながら近代という時代にふさわしい表現を模索してきました。

一方で、1990年代以降、新しい「日本画」とは何か、という問い掛けも続けられています。今回の企画展「The日本・画—大川美術館のコレクションを中心に」では、3部構成により、コレクションから精選した近代の「日本画」から、桐生で生まれ桐生で暮らした日本画家の作品、さらに自身に適した技法で独自の表現世界を展開する現代の作家5人の作品を紹介し、現代の日本の絵画として見直します。

※「The日本・画」展は30日まで。(大谷)